

JACET Kansai Newsletter

No. 74 May 21, 2016

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (滋賀県立大学) (Chapter President: Yuko Oguri, University of Shiga Prefecture)

事務局: 〒577-8550 大阪府東大阪市菱屋西 4-2-26 大阪樟蔭女子大学 藤澤 良行研究室内

(Chapter Office: c/o Yoshiyuki Fujisawa, Osaka Shoin Women's University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左のURLからご連絡下さい)

新年度を迎えて

小栗裕子 (支部長)

樋口晶彦先生ならびに九州・沖縄支部のみなさま

このたびの熊本地震とそれに伴う大災害に際し、心よりお見舞い申し上げます。

新しい年度が始まりました。支部長の小栗です。関西支部は前年度「英語教育セミナー」を担当し、210名の参加者がありました。12月の理事会でこの数字を報告した際、驚きの声が上がったことを私は嬉しく感じました。通常支部大会の参加者は150名程なので、秋季大会とセミナーを組み合わせたことによる相乗効果が出たのだと考えられます。企画内容がタイムリーで良かったことが一番の要因だと思われませんが、会場が神戸学院大学ポートアイランドキャンパスだったということも大きかったに違いありません。シンポジウムの大教室から見える海や懇親会会場からの夜景の美しさが印象的でした。研究企画委員長の加藤雅之先生、セミナーの実行委員長石川慎一郎先生、会場校の責任者中西のりこ先生、そして研究企画委員の先生方のご尽力に感謝の意を表したいと思います。

また、この1年間たくさんの方に支部運営を支えていただきました。特に照井雅子先生、里井久輝先生、そして仁科恭徳先生には運営のために多くの助言をいただきました。ここに深くお礼申し上げます。

さて、相変わらず「英語教育」が注目されています。4月5日の読売新聞の一面に「英語力中高生伸び悩み」という大きな見出しが躍っていました。これは文部科学省が行った全国の中高校生を対象にした2015年度の「英語教育実施状況調査」の結果です。この報告書は英検3級と準2級以上を持っている中学・高校3年生の割合を県別に比較しています(平均、中学の3級36.6%と高校の準2級34.3%)。これに準1級以上を持つ中学・高校教員の比率も加え掲載されていました(平均、中学30.2%と高校57.3%)。

今年2回生で「英語科教育法」を受講し始めた学生にこの記事を見せ、他の教科がこのように新聞の一面に載ることはあまりないので、英語はそれだけ関心を

持たれているのだという前置きをした後、何か気がついたことはないかと問うてみました。彼らは県別の数字を見ながら以下の2点をあげました。1つ目は中学と高校教員の英検準1級を持っている割合に大きな開きがあること、2つ目は高校教員が準1級以上の資格を持っているからと言って生徒も同じような割合で準2級以上を持っているとは限らないことです。私も2つ目は意外でした。

そこで、この新聞の数字を基にそれぞれの相関を統計処理して調べてみました。すると、興味深い結果が出ました。学生たちがコメントした2つ目の高校教員と生徒の間にはやはり相関はありませんでしたが、中学生の3級以上を持っている比率と中学教員の準1級以上を持っている比率との間に相関がありました。また、英検3級と準2級を持っている中学と高校の生徒間にも相関が見られました。そして、準1級以上を持っている中学と高校の教員間にも相関が生じています。いろいろな解釈ができそうですが、県別に「英語教育」に対する差がやや見られ、それが結果として数字に表れたように思います。ただし、当該の新聞記事は「中高の到達目標が50%には及んでいないこと、この県別の数字が独り歩きすることが心配だという自治体の懸念」にも言及しています。生徒の調査結果には実際の英検合格者のほか「相当の力がある」と各学校の教員が判断した生徒の数が含まれているということですが、その判断基準を文科省が示していないことも指摘しています。せつかくの全国調査ですので、まずは判明した内容を基に何ができるのか検討することや次回にむけて明確な判断基準を提示することが望まれます。

大学や学科によっても異なると思いますが、高校生の半数が準2級以上を持って入学して来る大学での「英語教育」の到達目標は何でしょうか。4月5日の「英語教育実施状況調査」の記事が私にこんなことを考える機会を与えてくれました。

今年度も支部大会2回と講演会3回が予定されています。また8月18日と19日にはサマーセミナーが京

都大学で開催されます(詳細は本部のHPをご覧ください)。みなさまには6月25日(土)の春季大会に京都ノートルダム女子大学でお会いできますことを楽しみにしております。

■今年度のイベント・カレンダー■

現時点で今年度(2016度)に予定されているJACET関西支部の活動です。是非ご予約ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2016/6/25	2016年度関西支部春季大会@京都ノートルダム女子大学 JACET Kansai Chapter Spring Conference, Kyoto Notre Dame University
2016/7/9	第1回支部講演会・支部役員会@神戸国際会館 Kansai Chapter 1 st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kobe International House
2016/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』19号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for JACET Kansai Journal No. 19
2016/10/15	第2回支部講演会・支部役員会@同志社大学(予定) Kansai Chapter 2 nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Doshisha University
2016/11/26	2016年度関西支部秋季大会・関西支部総会@関西外国語大学 中宮キャンパス(予定) JACET Kansai Chapter Autumn Conference / Chapter Annual Meeting, Kansai Gaidai University, Nakamiya Campus
2017/3/11	第3回支部講演会・支部役員会@関西学院大学 大阪梅田キャンパス(予定) Kansai Chapter 3 rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansei Gakuin University, Osaka Umeda Campus
2017/3/31	JACET Kansai Journal『JACET 関西支部紀要』19号刊行(予定) Publication of JACET Kansai Journal No. 19

なお、上記イベントは、諸事情により、断りなく日時・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。最新情報は JACET 関西支部のホームページ

(<http://www.jacet-kansai.org/>)にて随時更新しておりますので、ご確認ください。

Check the Kansai Chapter website for specific details:
<http://www.jacet-kansai.org/>

■ 2016年度 JACET 関西支部春季大会 ■

来る6月25日(土)、2016年度春季大会が、京都ノートルダム女子大学で開催されます。研究最前線シリーズは昨年秋の動機づけに引き続き、今回はアクティブラーニングをお送りします。基調講演「アクティブラーニング研究最前線」では山田剛史先生(京都大学)にご登壇いただきます。シンポジウム「アクティブラーニング実践最前線」では村上裕美先生(関西外国語大学短期大学部)からリメディアル教育について、中西洋介先生(近畿大学付属高等学校)には反転授業に関して、Curtis Kelly先生(関西大学)からはDigiTalesについてお話しいただきます。また、元支部長・顧問の多田稔先生の特別講演「JACET 関西支部への期待」も予定されていますし、多数の研究発表・実践報告の発表も行われます。会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。なお、詳しくは支部ホームページをご参照ください。

日時: 2015年6月25日(土) 10:00~18:10

場所: 京都ノートルダム女子大学

参加費: JACET 会員は無料、非会員は1000円

懇親会: 18:20~19:30(東華菜館 洛北店) 会費 5,000円(事前) / 6,000円(当日)

懇親会の事前申込を御希望の方は、

1) 氏名 2) 所属

を明記のうえ、件名を「JACET 懇親会申込(氏名)」とし、必ず下記メールアドレスまでお申し込みください。必ず下記メールアドレスまでお申し込みください。必ず下記メールアドレスまでお申し込みください。

(締切 6月17日(金))

申込先: masuda41@cc.kyoto-su.ac.jp (担当 増田)

JACET Kansai Chapter Spring Conference

We are very happy to announce JACET Kansai Chapter 2016 Spring Conference will be held at Kyoto Notre Dame University on Saturday, June 25. (<http://www.notredame.ac.jp/>) with the following keynote lecture, symposium, and special talk:

- Keynote Lecture by Mr. Tsuyoshi Yamada (Kyoto University)
- Symposium "Case Study on Active Learning Today" by Ms. Hiromi Murakami (Kansai Gaidai College), Mr. Yosuke Nakanishi (Kindai University High School), and Mr. Curtis Kelly (Kansai University)
- Special Talk "Expected Roles of JACET Kansai

Chapter” by Mr. Minoru Tada (JACET Adviser/Former Chapter President).

There will also be 12 paper presentations and two poster presentations. We look forward to seeing you (again) at the conference. For the details, please refer to our website: <http://www.jacet-kansai.org/>

The participation fee is free for JACET members while ¥1,000 will be needed for nonmembers.

The reception party will be held at Tokasaikan Rakuhoku-ten from 18:20 to 19:30. Participation fee is ¥5,000 if reserved in advance by email by June 17 or ¥6,000 if joined on site.

Reception Reservation: Please email for reservation to Mr. Masuda (masuda41@cc.kyoto-su.ac.jp) by June 17th and pay on site (Fee: ¥5,000). Payment at the door without reservation is ¥6,000.

■ 2015 年度第 3 回支部講演会の報告 ■

2015 年度第 3 回講演会が、2016 年 3 月 5 日（土）に関西学院大学 大阪梅田キャンパスで開催されました。講演には 43 名の参加があり、リスニングの土台となる語彙力や文単位の韻律情報の処理を総合テーマとした複数の実証研究のご報告を、皆様熱心に聞いておられました。質疑応答・討論では短い時間ながらも、講師の先生方と参会者との活発な議論が展開されました。多くの皆様のご参加、誠にありがとうございました。

講師：リスニング研究会

原田 洋子先生（関西国際大学）

Stuart McLean 先生（関西大学）

松田 紀子先生（大阪工業大学）

樽井 武先生（電気通信大学）

梶浦 眞由美先生（名古屋大学大学院）

神野 雅代先生（四天王寺大学）

演題：「リスニングに於ける日本人 EFL 学習者の語連鎖と韻律情報の処理に関する研究」

The Third Lecture Meeting of the 2015 academic year was held on March 5th at Kwansai Gakuin University, Umeda Campus, with 43 participants. The speakers from Listening Research Group shared with the audience about their research project on Japanese English learners' processing of auditory-presented formulaic sequences (FSs), and prosodic information. After the stimulating presentations, there was an active discussion among the speakers and the participants.

Title: Empirical Studies Investigating the Processing of Auditory-Presented Formulaic Sequences, and Prosodic

Information among Japanese English Learners

Speaker: Listening Research Group

Ms. Yoko Harada, Kansai University of International Studies

Mr. Stuart McLean, Kansai University

Ms. Noriko Matsuda, Osaka Institute of Technology

Mr. Takeshi Tarui, The University of Electro-Communications

Ms. Mayumi Kajiura, Nagoya University Graduate School

Ms. Masayo Kanno, Shitennoji University

■2016 年度第 1 回支部講演会のお知らせ■

2016 年度第 1 回関西支部講演会は、例年の招待講演に代わり、下記の通り科学英語教育研究会および授業学（関西）研究会による講演を予定しています。2015 年度から新たに活動を開始した 2 つの新しい研究会（SIG）をご紹介します。皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日時：2016 年 7 月 9 日（土）15:30～17:00

2. 場所：神戸国際会館 805 号会議室（JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神「神戸三宮」駅下車。徒歩 5 分程度。）
(<http://www.kih.co.jp/access/>)

3. (第一部) 科学英語教育研究会担当

講師：野口ジュディー津多江先生（神戸学院大学）
尾鍋智子先生（大阪大学）

演題：「科学英語—大学院教育の視座から」

概要：グローバル化の進んでいる現在、科学界で知識構築に貢献し、政治経済界で国際基準設定に参加するには、技術力だけでなく、言語力も不可欠です。しかも、プロフェッショナルとしての読み書きの力はもちろん、本格的に意見交換、交渉、説得するにはリスニング力とスピーキング力も必要です。このような高いレベルの英語力をどのように取得するか、また、様々な World Englishes や ELF (English as a Lingua Franca) の存在している中、具体的に何を目標として定めればよいのか答えを探ることが科学英語教育研究会の大きなミッションといえましょう。そのためフォーカスを理系大学院教育にあて、そこで特に必要とされる高度度かつ、発信型の EAP (PBL やライティング、プレゼンテーションなど) 教育を現在の研究課題としています。当研究会はこれら問題意識を共有する有志が昨年 6 月より活動をはじめました。前半にミッションについて、後半は具体的活動について報告いたします。

(第二部) 授業学（関西）研究会担当

講師：村上裕美先生（関西外国語大学短期大学部）

演題：「授業学とは」

概要：授業学（関西）研究会では、大学英語教育における授業の種々の要因を授業学として大系的に捉える研究を行っている。授業は教員と学習者により成立するが、その授業の背景には教員の能力および資質、カリキュラム、各大学における英語教育の位置付けなども関与しており体系化の範疇は広域に及ぶ。

授業研究には教員の内省という印象が強いが、学習者の学びという視点を除外することはできず、学びを効果的にかつ深い学びに誘うための種々の教授法や学習の振り返りとしてポートフォリオなども本研究の範疇に入る。国内外において優れた授業研究や授業力育成の研究がおこなわれている。本研究会において個々の研究者が集い、授業学として集約することにより日本の大学英語教育における「授業学」の確立を目指している。

本講演では、研究目的を具体的に紹介し、その目的のもと発足以来2年目を迎える授業学（関西）の研究活動と今後のビジョンについて考察する。

4. 参加費：JACET 会員は無料、非会員は 500 円
 5. 使用言語：発表は日本語、質疑は日本語・英語
 6. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、参加費 500 円、1 時間程度）を予定しています。
- 詳細は、関西支部 HP をご覧ください。

The First Chapter Lecture of the 2016 Academic Year

JACET Kansai Chapter will hold the First Lecture Meeting of this academic year as follows:

1. Date: July 9 (Sat), 2016, 15:30–17:00
2. Venue: Kobe Kokusai-Kaikan
(Kobe International House) Meeting Room 805
Access: <http://www.kih.co.jp/access/>

3. Speakers & Titles:

[Session 1]

English for Japanese Scientists SIG ;

Ms. Judy Tsutae Noguchi, Kobe Gakuin University,
Ms. Tomoko Onabe, Osaka University

Title: *English for Science at the Graduate School Level*

Abstract:

With the rapidly advancing globalization of today, language ability is essential to enable academics to participate in the construction of specialist knowledge as well as in the setting of international standards. This encompasses the ability to perform at a professional level, not only in reading and writing, but also in speaking and

listening in order to be able to actively participate in discussions and negotiations. However, with various types of World Englishes and ELF (English as a Lingua Franca) in existence today, we need to be able to better identify the learning targets to guide our teaching. This is the mission of the JACET SIG on English for Japanese Scientists, which focuses on the needs of graduate school students in science and engineering fields. This SIG aims to develop and share EAP methods for actively transmitting information, such as PBL and ways to teach advanced writing and presentation skills. The first part of this presentation will be on the concepts underlying our mission and the second half on our activities since June 2015.

[Session 2]

Developmental Education Kansai Chapter SIG;

Ms. Hiromi Murakami, Kansai Gaidai College

Title: *Exploring Classology*

Abstract:

Our research aims to construct an English classology system for Japanese higher education. The term is still completely unfamiliar to Japanese educators, but we believe that the classology system will be a great help for every educator to improve their teaching skills and to understand learners.

Earlier domestic studies for improving teaching skills provide various tips for better teaching. Although each of these research projects offers some insights and benefits, this information is not systematically organized for practical use.

In this presentation, I am going to overview categories of classology to understand its definition. I will then explain about our activities of 2015 and our vision for the future.

4. Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register
5. Main language for presentation: Japanese, but Q&A can be in Japanese or English.
6. Party: Please join us for about one-hour tea party with light snacks after the lectures. The fee is ¥500.

Details available at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■JACET 第 55 回国際大会のお知らせ■

2016 年 9 月 1 日（木）から 3 日（土）まで北星学園大学にて JACET 第 55 回国際大会が開催されます。

皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ：ボーダレス時代における英語教育をデザインする

開催日程：2016年9月1日（木）～9月3日（土）

開催場所：北星学園大学

要旨：これまで私達が直面する課題を解決するために、多くの指導法が開発され、実践されてきた。また、ボーダレス時代における英語運用能力の必要性の高まりを背景にして、多くの研究がなされてきており、指導法や指導技術がどれほど効果的であるか、学生をどのように評価するのか、どのような教材が用いられるべきかが調べられてきた。実際の授業の場面においても、私達はこの必要性に応じて対処しなければいけないし、第二言語学習に対する多様な期待を裏切らないために処置を講じていかなければいけない。

大学英語教育学会第55回（2016年度）国際大会では、小学校から大学までの英語教育の新たな展望や取り組みに関して、教育法、教材開発、そして、評価という三つのテーマを中心に俯瞰的に議論し、それら革新的なアプローチについて第二言語習得理論から考察を加える。また、グローバリゼーションと多言語社会を背景にした学際的な研究が進む中、時代に対応した新たな指導法、言語と教科内容（コンテンツ）の統合をどのようにデザインし実施していくかを考察する。本大会では、このボーダレス時代におけるクラスルーム内外の英語教育全般を視野に入れた議論の場とし、いかに大学教育に応用できるのかを探求したい。

The JACET 55th International Convention

- Theme: Designing English Education in a Borderless Era
- Date: September 1 (Thu) – September 3 (Sat), 2016
- Venue: Hokusei Gakuen University
- Abstract: Many pedagogical approaches have been developed and implemented to cope with the teaching challenges we face. Much research has been conducted to investigate what approaches or techniques are effective, how students are evaluated, and/or what resources are to be directed towards the growing needs for English competency in a borderless era. From the practitioner's viewpoint, we are faced with the issues of how to work with an ever increasing number of diverse needs and with students who often approach second language learning with vastly different expectations.

The JACET 55th (2016) International Convention will comprehensively discuss new perspectives and initiatives for English education from the primary to college levels centering on the three themes of pedagogy,

materials development, and evaluation. We will examine these innovative approaches from the viewpoint of second language acquisition theory. While progressing with interdisciplinary research in the context of globalization and plurilingual environments, we will also explore how to design and implement new pedagogical methods adapted to the globalized era and the integrated teaching of language and contents. The JACET 55th (2016) International Convention will offer opportunities for discussion on all levels of English education for the classroom and beyond in this borderless era and investigate how insights gained from such research and discussion can be applied to tertiary education.

■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』第18号を3月末に会員の皆様に送付致しました。今回は2本の研究ノート、2本の実践報告に加えて3本の委嘱論文を掲載しております。短い査読期間で何度も審査をしてくださった査読委員の先生方には、紀要編集委員一同心よりお礼申し上げます。

第19号でも招待論文、一般投稿論文の他に支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集いたします。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるように、投稿規定（<http://www.jacet-kansai.org/file/toukougitei.pdf>）をご確認の上、次号紀要にも奮ってご応募ください。

The JACET Kansai Journal (JKJ) Editorial Committee announces the publication of JKJ No.18, which was sent to members at the end of March. The journal contains three invited articles, two research notes and two application reports. The Editorial Committee expresses its sincere gratitude to the reviewers who devoted much time and effort to the editorial process.

To submit a paper for the next issue, *JKJ* No. 19, check the guidelines for details on the submission procedures and requirements available at the end of *JKJ* No. 18 or at the following URL:http://www.jacet-kansai.org/file/toukougitei_e.pdf.

■ 事務局より ■

Messages from Kansai Chapter

事務局が交代しました。支部役員の詳細については、HPの一覧でご確認いただけます。

As of April, the JACET Kansai Chapter office has moved. For details, please visit our website: <http://www.jacet-kansai.org/index.html>.

4月1日より、支部事務局が大阪樟蔭女子大学藤澤研究室に移りました。今後1年間、関西支部の仕事を担当させていただきます。連絡先は本NL74号の冒頭をご覧ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の執行部は、小栗支部長、新田副支部長を始め、以下、総務幹事を藤澤・高橋・東郷、財務を増谷・宇佐美・村上、紀要を吉村・服部、広報を表谷・蔦田が務めます。今年度は幹事の改変期にあたり、臨時的に10人の体制となります。関西支部活動の活性化に向けて、全員で力を合わせて職務を果たしてまいりたいと存じます。役員や本部運営委員の体制にも一部変更がございます。くわしくは関西支部のWebsiteをご覧ください。

研究企画委員長は生馬裕子先生（大阪教育大学）、研究企画副委員長は金丸敏幸先生（京都大学）と時岡ゆかり先生（大阪産業大学）が、新しくご就任になりました（50音順）（任期1年間）。また、新たに7名の先生方が研究企画委員をお務めくださいます（任期2年間）。関西支部大会がより一層有意義で魅力あるものになるようご尽力くださいます。

以上のような体制で進めてまいります。皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。今年度は2回目の社員選挙の年にあたります。秋にまたお知らせをすることになります。ご協力をお願いします。

2015年度でご退任なさった先生方から、以下のメッセージをいただきました。併せてご紹介いたします。これまで関西支部のためにご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

■退任のご挨拶■

Messages from Kansai Chapter officers completing their term of office

◎ 旧支部長：野口ジュディー津多江先生（神戸学院大学）

関西支部長として2010年より5年間努めてまいりました。2011年に関西支部が40周年を迎え、記念支部大会にバーミンガム大学からSusan Hunston教授を招き、開催しました。2012年には第52回国際大会を京都大学の田地野彰先生のグループと関西支部の総力で盛大に行いました。支部役員、研究企画委員の皆様様の素晴らしいチームワークと、奉仕の精神のお蔭で実現できたことと心から感謝しております。今後もJACET副会長として微力ながらJACETの末永い繁栄と発展に貢献していきたいと思っております。関西支部の益々のご発展、皆様様の更なるご多幸を心からお祈りしております。

◎ 旧支部長補佐：照井雅子先生（近畿大学）

JACET法人化に伴い、総務副幹事1年、事務局幹事2年、支部長補佐1年の計4年、多くの先生方に大変お世話になり、なんとか務めさせていただくことができました。この間、支部運営要領を見直し、幹事業務の円滑な引き継ぎ方法が整理できました。ご一緒させていただいた先生方に学ぶことばかりで、その献身的な素晴らしいお仕事ぶりに感銘を受け、関西支部を支えてくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。支部のますますのご発展をお祈りしつつ、貴重な経験をさせていただいたことに心よりお礼申し上げます。

◎ 旧支部長補佐：里井久輝先生（龍谷大学）

会計・財務担当幹事および支部長補佐として4年間大変お世話になり、誠にありがとうございました。JACET 関西支部のすばらしいチームワークのもと、多くの先生方と充実した時間を御一緒させていただき、またいろいろと御教示いただきましたこと心より御礼申し上げます。これからも引き続き素晴らしい企画と運営により、JACET 関西支部が、会員の皆様にとってさらに魅力と価値のある学会として益々発展していきますことを心より祈念いたしております。

◎ 旧支部長補佐：仁科恭徳先生（神戸学院大学）

広報・紀要を3年間担当した後、支部長補佐として1年間務めさせていただきました。支部長、副支部長、支部幹事、紀要編集委員、研究企画委員を含め、本当に多くの方々に大変お世話になりました。広報・紀要のお仕事は、正直とても大変でしたが、学術学会の運営の裏側を見ることができ、私の人生にとって最良の経験となりました。ここに改めて感謝申し上げます。これからは研究企画委員として従事していきますので、引き続きよろしく願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員長：加藤雅之先生（神戸大学）

おそらく、延べ時間にすると、24時間もなかったかもしれないが、4年間にわたり、定期的に20名のグループの方々とお会いし、お弁当を食べ、話を交わし、お互いの成長ぶり（よく言えば）を観察するのは、なかなか面白い経験だったのだと思う。家族とも、職場の同僚とも、幼友達ともちがう、研究企画委員会というコミュニティは何だったんだろうかな。あの微妙な距離感と、徐々に深まっていきながら、期限が来るとさっとわかれていく、さみしさまじりの解放感。もう二度と会えないわけではないが、確実に会えるだろう機会は極端に少なくなりました。そろそろ出欠を問い合わせて、お弁当の有無も確認しないといけない時期なのに…ふと目覚めて、今日が日曜日だとわかったときの甘酸っぱい脱力感。外から見るだけでは決してできないような貴重な観察や体験をすることができました。みなさまお世話になりました。

た。また、どこかでお会いいたしましょう。

◎ 旧研究企画副委員長：石川慎一郎先生(神戸大学)
いやあ、楽しかったです。どんなシンポジウムにしようか、どんな講演者においでいただくか、会場の動線はこれでいいか、懇親会の料理は炭水化物多めで依頼しようかデザート多めで依頼しようか、などなど、諸先生方と一緒に大会を一から作り上げていくプロセスを経験できたのは至上の喜びでした。最近はこの大学も忙しくなっていますが、ぜひ、多くの方にこのエキサイティングな仕事を体験していただきたいです。やると結構ハマりますので(笑)。これからは、聴衆の立場で、また楽しませていただきます。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画副委員長：中西のりこ先生(神戸学院大学)

2012年度から2015年度まで2期、研究企画委員としてお世話になりました。3年目からは委員長の加藤先生の元で石川先生とともに研究企画副委員長という役をいただき、ものごとが決まっていくスピードに目を丸くしながらも、本当に貴重な経験をさせていただきました。2015年秋の大会では会場校として、多くの先生方に自慢のキャンパスをご覧いただけたことも、大事な思い出の一つとなりました。この4年間、JACET 関西支部の先生方と一緒にさせていただけたことを大変幸せに思います。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：岡本真由美先生(関西大学)
これまで2期4年間にわたり研究企画委員としてお世話になりました。委員として十分にお役には立てなかったという反省と、温かい先生方と交流をさせていただけた感謝が混じり合った心持ちでおります。支部会や全国大会のお手伝いをさせていただき、会員の研究が、様々な委員の先生方のお力によって支えられているのだと痛感いたしました。これからは、一会員として、良き研究をするべく研鑽を積んで参らなくてはと思っております。本当に、ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：高橋幸先生(京都大学)
2012年度から2015年度まで2期4年間にわたり、研究企画委員を務めさせていただきました。その間、支部大会などの企画や実施に携わりながら、高校の文化祭のときのような甘酸っぱい楽しさや達成感、一方で反省の気持ちを味わいました。限られた予算や人員をやりくりして、参加者をできるだけ喜ばせたいという、素敵な研究企画委員の先生方と一緒に仕事をする機会をいただけたことに心より感謝いたします。これからは、総務副幹事として、JACET 関西を盛り上げるお手伝いができるようがんばってまいります。

◎ 旧研究企画委員：玉井史絵先生(同志社大学)
委員といっても名ばかりでほとんど貢献することなく、2期4年間に過ぎてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。けれども、研究と教育への情熱溢れる先生方と一緒にさせていただいたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。普段は文学関係の学会を中心に活動しておりますが、これを機にJACETにもより積極的にかかわり続けたいと思っております。委員の先生方、そして会員の先生方、本当にありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：松田早恵先生(摂南大学)
同期と一緒に巣立っていく卒業生の気分です。氏木委員長と加藤委員長のもと、研究企画委員を4年間務めさせていただきました。第一線で活躍の先生方ばかりで最初は恐縮していましたが、関西支部には自由に意見が述べられるオープンさがありました。徐々に企画委員会や大会で皆様にお目にかかれるのが楽しみになっていきました。大いに刺激もいただきました。舞台裏の大変さも少しわかった気がしますので、これからは感謝の念を忘れません。そして、JACETの益々のご発展と皆様のご活躍をお祈りしております。有難うございました！

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報(住所、メールアドレス、所属、電話番号など)が変わられた方は、必ずご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。会員情報の変更のご連絡は、本部事務局(jacet@zb3.so-net.ne.jp)までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers and other information to **JACET headquarters** (jacet@zb3.so-net.ne.jp)